



あおりトート 仕様書

PP411/PP527/PP543

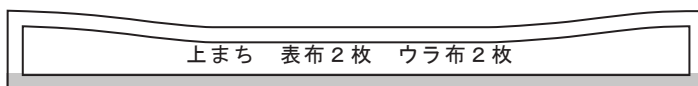
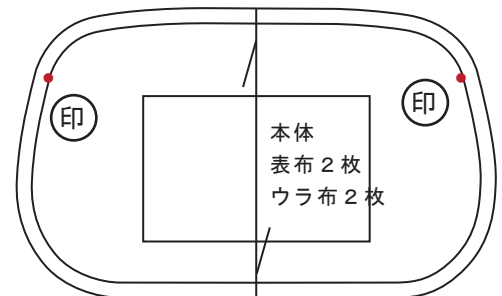
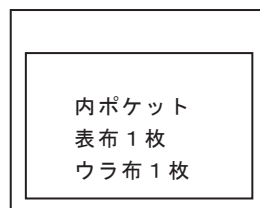
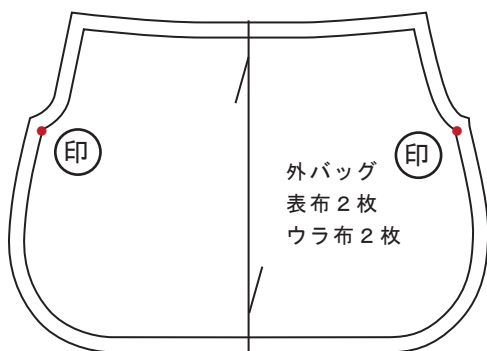
用意するもの

- 表布
- ウラ布
- 10mm 幅のびどめテープ
- ファスナー（とめ）40cm（Mは50cm、Lは56cm）
- 縫い代始末用グログランテープ

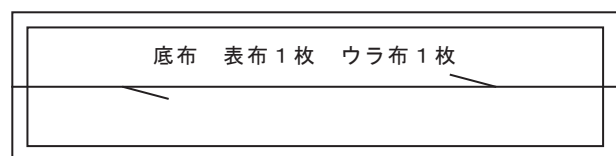
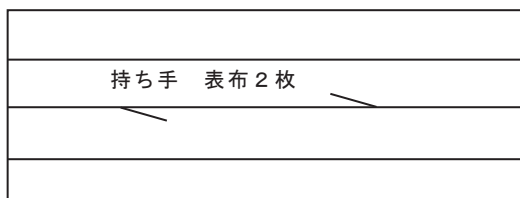
準備

- 裁断パーツ6・合計18枚
- 赤丸のところに印を入れる

長い場合などは、コイルファスナーはカットして使用できます。
金属やビスロンファスナーの場合は、ムシを外して長さを調整します。



上まち（表布ウラ布どちらか）のウラ面にのび止めテープ



準備

ポケットの位置と数は自由ですが、仕様書では本体バッグ内側と外側の図の場所に1枚ずつつけると想定しています。

本体バッグ内側（ウラ地）
あおりを開いた時の本体バッグ外側（表地）



上まち（表地）ウラ面にのびどめテープを貼る

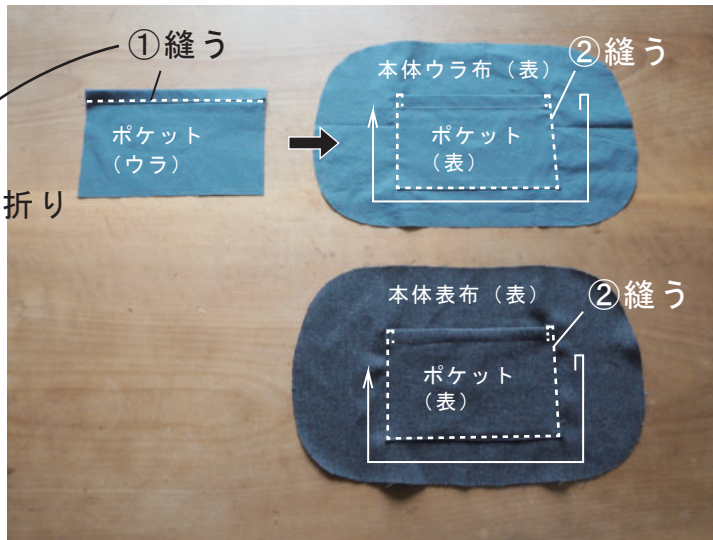
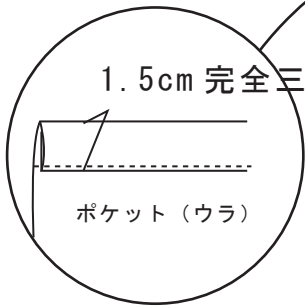
（表地がキルティングなどの素材で安定しないなどの場合は、ウラ地側に貼る）

裁断します。上まちのファスナーつけ側に、のびどめテープを貼ります。指定の場所に、印を入れます。（写真の●部分と本体バッグのポケット位置）

前身頃

1.5cm 完全三つ折り

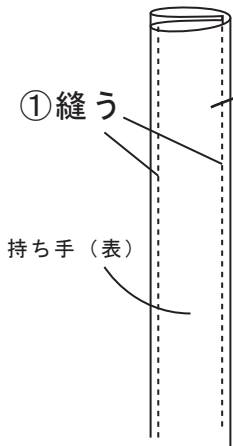
ポケット（ウラ）



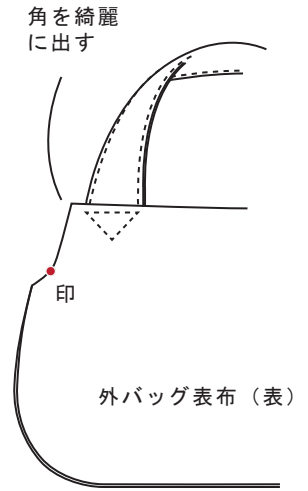
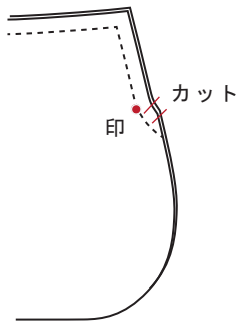
ポケット口を1.5cm完全三つ折りにし、ステッチ始末します。それぞれ、本体表布、本体ウラ布の表面に縫いつけます。

①縫う

持ち手（表）



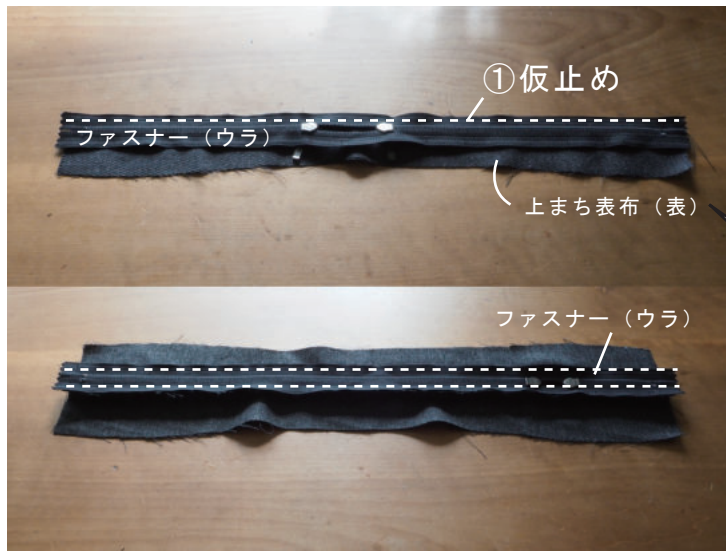
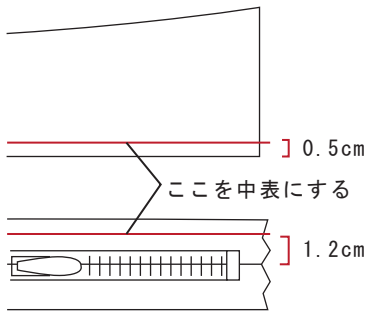
持ち手を4つ折りに折り込んで、両端をコバステッチしたものを2本作って、外バッグ表布に乗せ、端から0.5cmの所を仮止めしておきます。



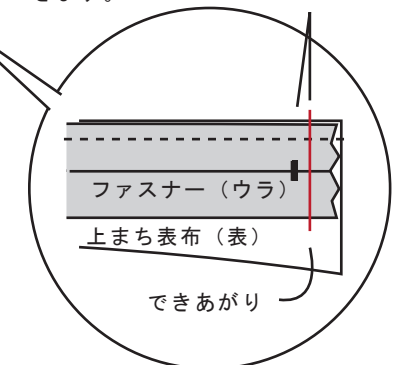
外バッグの表布とウラ布を中表に合わせて、コの字に1 cmで縫い、カーブのところの縫い代を切り込みます。表に返し、持ち手部分を三角に縫います。同じ物を2枚作ります。

ファスナー

● polka drops で扱っている5コイルファスナーの場合

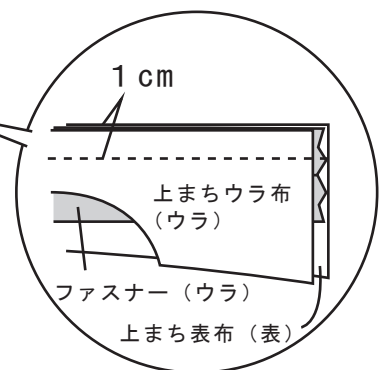


サイズ通りの長さのファスナーを使う場合、止めできあがりから0.7cm内側に、ファスナーの止め金具端がきます。



ファスナーは布部分の幅、ムシの幅がメーカーや種類によりまちまちなので、この寸法は目安として記載しています。

ファスナーと上まち表布を中表に合わせて、指定のところを仮止めします。両側、同様にします。

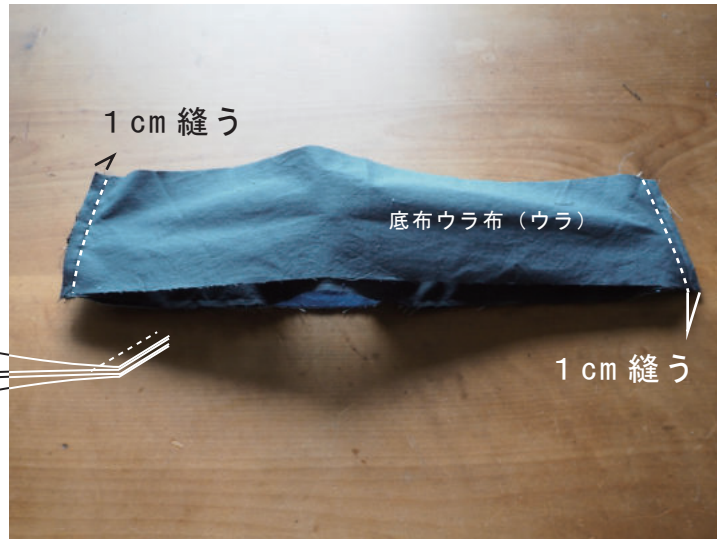
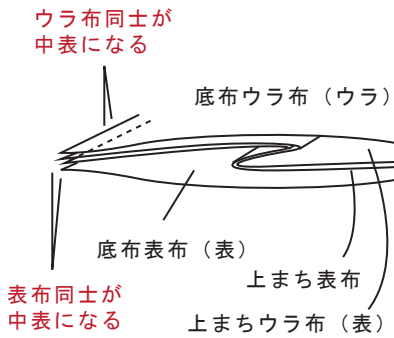


ファスナー部分は1.2cm幅になります。

ファスナー押さえを使う

ファスナーを挟むように、上まち表布と上まちウラ布を中表に合わせて、1 cmで縫います。できあがりに応じて、ファスナー横を0.5cmステッチ、周りを0.5cmで仮止めします。

底布

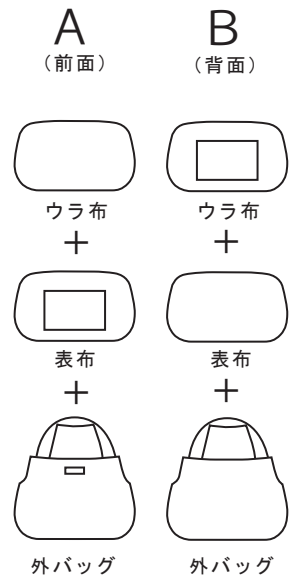


底布表布と底布ウラ布で、上まちを挟むようにして中表に合わせて、両側を1 cmで縫い合わせます。



表に戻して、切り替えの底布側に0.5cmステッチを入れます。底布は、表布とウラ布を重ねて仮止めします。

合体



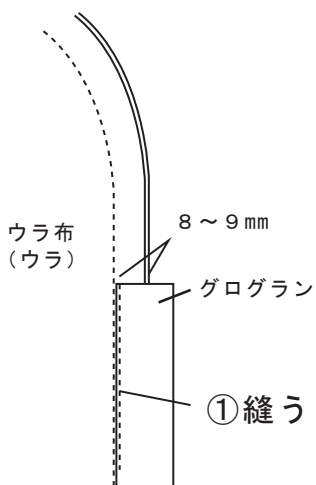
外バッグと本体をできあがりに重ねて、ぐるっと仮止めします。



- ひっくり返せなくなるのでファスナーは、開いた状態で縫いましょう

まちと本体を中表に合わせて、外バッグのあおり部分を縫いこまないように 1 cm で縫い合わせます。

縫い代始末



縫い代始末をします。直線部分にグログランテープの接ぎ目がくるようにして、端を縫い代の直線部分に、8~9mm かかるように乗せ、グログランの端をステッチします。



- 8~9mm は、グログランの幅が 2cm の場合を想定しています。グログランの幅に合わせて、調整してください。

グログランで縫い代を包んで、ステッチ始末して完成です。